

<イエスさまが礎>

マルコ12:1~12



【悪い農夫のたとえ話】

ぶどう園の主人…神 / 農夫…宗教指導者たち / しもべたち…旧約の預言者
愛する息子…イエス・キリスト / ぶどう園…イスラエル

イエスさまは、たとえ話で何を伝えようとしているのだろうか・・・？
イスラエルの民が、ぶどう園と聞いて思い出すことは・・・

さあ、わが愛する者のためにわたしは歌おう。そのぶどう畑についてのわが愛の歌を。
わが愛する者は、よく肥えた山腹に、ぶどう畑を持っていた。彼はそこを掘り起こし、
石を取り除き、そこに良いぶどうを植え、その中にやぐらを立て、酒ぶねまでも掘って、
甘いぶどうのなるのを待ち望んでいた。ところが、酸いぶどうができてしまった。 イザヤ5:1, 2

手をかけて育てたぶどう。

何故、野生種のような酸っぱいぶどうになってしまったのか！

- ◆神のことばを受け入れず、反逆し続ける「この世」に対して、神はそれでもあきらめず、ひとり子であるイエスキリストをこの地に遣わした。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。 ヨハネ3:16, 17
ぶどう園の主人が最後に遣わした最愛の息子は怎么样了？

主人に背き続けて、悪いという自覚が全くなかった農夫たち。

彼らは、このたとえ話が、自分たちをさして語られたことに気づいた。【12 節】

「主人の愛する息子」は、イエスさまを指していることも理解できたはず・・・。

悔い改めた？ いいえその逆。

気づいたので、イエスを捕らえようとしたが、しかし、やはり群集を恐れた。それで、イエスを残して立ち去った。【12 節】

【ポイント】

- ぶどう園の主人は、このぶどう園を任せて旅に出たが、再び戻ってくる。
- 放置していたわけではなく、黙って見ておられた。沈黙しておられた。

ところでぶどう園の主人は、どうするでしょう。彼は戻って来て、農夫ともども打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。【9 節】

たとえ話のあと、イエスさまは篇 118 篇を引用して言われた。

あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちの見捨てた石、それが礎となった。これは主のなされたことだ。私たちの目には、不思議なことでもある。』

【10, 11 節】

The stone the builders rejected has become the cornerstone.

- ◆家を建てる専門家である大工が、こんな石では役に立たない！と捨ててしまったその石こそが、大事な石、礎(Cornerstone)として役立った。

*礎・・・柱の下に置く土台。英語ではコーナーストーン

ペテロ 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった』というのはこの方のことです。この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。使徒 4 : 11、12

大切な礎を知らぬ間に捨ててしまっていないだろうか？

ところが、捨てたはずのものが神の不思議なご計画の中で、私たちの人生を支え、救う御方として現れて下さる。主は生きておられる！